

田んぼの多面的機能

「農業・農村の有する多面的機能」について、ご存じでしょうか。農村で農業がおこなわれることの大切さについて、「国土の保全，水源の涵養(かんよう)，自然環境の保全，良好な景観の形成，文化の伝承等，農村で農業生産活動が行われることにより生ずる，食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のこととまとめられています。

農林水産省；https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyo_kinou/

6月15日(火)，3年生の稲花タイムでは，校長が，「田んぼのふしぎ，田んぼのやくわり」と題して，水田を例に，その多面的機能を学ばせる授業を行いました。3年生は6月8日(火)に横浜市青葉区の水田(田奈の田んぼ)で，水田や周辺の様子を観察し，また農業者から農業に取り組む気持ちなどを聞いてきたところです。その体験からか，「食べ物を作る」「いろいろな生き物が住んでいる」「きれいな景色」などはすぐに子どもたちの言葉として出てきました。一方，「洪水を防ぎ，水をきれいにして貯える」「暑い時も涼しくなる」などは，授業の中ではじめて気づき学ぶこととなりました。

校長が研究のために訪問して撮影した日本各地の水田，また，ベトナムやフィリピンの棚田の画像は，子どもたちにも強い印象を与えたようです。さらに，50ミリリットルのチューブに田奈の田んぼの土と水を入れて一人1本ずつ配布しました。これをよく振ってドロドロしても次第に泥が沈殿し，上の水が澄んでくる様子を観察し，田んぼの役割についての理解を深めました。

農大稲花小で学ぶ子どもたちは皆，自然や生き物が大好きですが，都会っ子です。それでも，農業や農村の大切さを理解し，将来，どのような分野で活躍するにしても，農業・農村の力強いサポーターであってほしいと願っています。



教育実習生を受け入れて

6月14日(月)から18日(金)までの5日間、農大稲花小では、東京農業大学応用生物科学部栄養科学科4年生1名を、栄養教諭教育実習のために受け入れました。本校で受け入れるはじめての教育実習生です。もちろん、教育実習生としての感染症対策を万全にとることとし、直前のPCR検査で陰性であることを確認してからの受け入れとなりました。

実習生は、主として2年生の学級に配置され、栄養教諭の業務や給食の仕組みについて学ぶとともに、食育関連授業の見学や給食指導の補助などを行いました。2名の受け入れを予定していたところ1名のみの実習生となったのは残念でしたが、子どもたちは、新しい「先生」の存在に興味津々の様子でした。また、6月17日(水)には、東京農業大学教職・学術情報課程の鈴木聡志准教授が実習生の指導のために来校されました。なお、東京農業大学では中学の社会、理科、技術、高校の地歴・公民、理科、情報、農業、また 栄養教諭の教員免許を取得することができます。大学院でそれぞれの専門を学びながら、さらに専修免許を取得することもできるのです。

東京農業大学 令和元年度 教員免許取得者数：

<https://www.nodai.ac.jp/application/files/8416/0126/5017/663d2c26af6b28c18dd077551b2d3362.pdf>

本校で受け入れた実習生の素敵な笑顔を見ながら、将来、栄養教諭として活躍される日が来ることを期待しました。子どもたちにとっても、もしかすると、自らの将来を考える機会になったかもしれませんね。

町探検に出かけよう

6月17日(木)に2年2組が、翌18日(金)には2年1組が、農大通り商店街の町探検をしました。生活科の授業の一環です。6人で一つのグループを作り、発見したものを記録しました。交通量が多い農大通り商店街です。暑さも心配されました。しかし、先生方の指導と安全に対する配慮の下、子どもたちは張り切って町探検に取り組んでいました。校外学習における集団活動のルールやマナーを確認する機会ともなりました。通学路の関係から、はじめて農大通り商店街に足を踏み入れた子どももいたことでしょう。

農大稲花小の子どもたちのように私立小学校に通う子どもたちは、生活をする場所(住所)と学ぶ場所(学校所在地)が離れていることがほとんどです。町探検で学校所在地近隣のことを勉強した2年生ですが、これを機会に、生活をする場所についても学んでほしいと思っています。今後、保護者の皆様のサポートにより、子どもたちがそれぞれの地元について学ぶことができれば、さらに視野が広がることでしょう。



新型コロナウイルス感染症防止対策は続きます

10都道府県に発令されていた緊急事態宣言は、沖縄県を除き6月20日(日)で最終日となりました。しかし、農大稲花小における新型コロナウイルス感染症防止の様々な措置に変わりはありません。本校では引き続き、細心の注意をはらって、子どもたちの健康、そして学びを守ってまいります。社会の様子を見ると残念ながら、子どもたちへの感染のリスクはまだあると言わざるを得ません。どうぞ、子どもたちの学び、とくに集団としての学びや成長が守れるように、保護者の皆様にも感染防止について引き続きご協力をお願いいたします。

校長 夏秋 啓子